

SHIN CLUB 259

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



「SolanaTakanawadai」 撮影：新良太

今月のトーク/monthly talk

住む人の記憶に残る生活空間

写真は、品川区に今年竣工した共同住宅です。地下1階、地上3階のコンクリート打ち放しの建物は、篠原聡子氏主宰の空間研究所の設計です。建て主のK様を取材しました。

K様が子どもの頃から馴染みのある高輪台で共同住宅を建てることになりました。スペイン語で「陽だまり」という意味のSolanaと名付けられた建物を計画するにあたり、比較的時間取りに余裕を持たせること・明るいこと・収納が多く使い勝手がよいこと、の3つの要望を出されました。

三面道路に面したL字型の高低差のある計画地には、以前は2棟の木造2階建ての賃貸住宅が建っていました。すべての住戸に光を取り入れられるようにアプローチ通路は三方向の計画とし、出窓のある白い壁に囲まれたその明るい吹き抜け通路はまるで路地のようです。室内は打ち放しと木の温かさ、白色のアクセントが住む方の暮らしを引き立てる内装になっています。

設計事務所に出会うまではK様ご自身で色々調べられたそうです。そんな中「シェアハウス図鑑」(2017年彰国社)という篠原氏が執筆された本を読み、面白そうだと連絡をされました。「デザインのエッジを立て過ぎると住みやすさと両立が難しいですが、そのデザイン性が居心地の良い空間を作っているらしいから

原さん、金子さんのお二人を信頼してお任せしました」とK様。

外構には二重のメッシュフェンスが設置され、外からは見えにくく建物の中からは外がよく見えます。採光や通風もよく、住宅地で周辺を行き交う人の気配が感じられる心地よい空間になりました。当初、入居者は20代から30代の女性やご夫婦などを想定しており、人生のステージが変わり別のところで暮らすことになったとき、「ああ、あそこに住んでよかった」と記憶に残るような建物になるといいな、とK様はおっしゃいます。

また、よく通るところに2017年竣工のarchitecture WORKSHOPの北山恒氏設計のPeak Cottageがあり、3年ほど定点観測されたところ、いつまで経ってもきれいなコンクリート打ち放しに感動し弊社にお声掛けいただいたそうです。今回完成した建物もきれいに仕上がり大変満足とお言葉をいただくことができました。また、入居された方からは土間キッチンや造作家具など反響いただいているとのことでした。

この周辺には計画道路の予定があり、今回の建物はその変化に対応できるよう配慮し設計されました。建物に居心地の良い生活を求めて人々が集まり、その心地よさが地域に広がり品川エリアの変化に合わせてどのように感じられるのか今から楽しみです。

Solana Takanawadai



夜景全景。二重のメッシュフェンスが視線を遮る

未来に明るい光を感じる住まい

建て主のK様より「どの部屋もまんべんなく明るく、住む方の居心地が良い建物にしてほしい」というご要望をいただき、随所に明るさを確保し温かみのある建物にしようという想いで設計した。

三面道路に面し、高低差のあるL型の敷地に建つ「Solana Takanawadai」。一般的な片廊下形式のプランニングをすると、両側を界壁に仕切られ、開口部は正面の一か所からのみとなってしまう、まんべんない明るさを確保できずご要望に応えられないと思った。

そこで、敷地形状を活かし住戸の二面が道路に面するように3つの住棟（細長い住戸・L型の住戸・台形のワンルーム住戸）に分け、その間に動線を設けたシンプルな構成とした。その建ち方は「戸建てが3棟建っている」という感覚で、各住戸どこでも窓を開けられ、明るさが均等に入るように考慮した。各住棟の間が入口で、吹き抜けた立体路地から各住戸へアプローチする。それは、この住宅街の魅力でもある起伏した路地の体験を内包させたものである。トップライトは、階段室の温度によって開閉するシステム（降雨時、強風時に閉まるように屋上に感知器を設置）を特注で組み込み、光だけでなく風も取り込んだことで屋外に近い雰囲気演出。立体路地に面する出窓から光と多様な景色を引き込んだ。

住人同士のプライバシーに配慮しながら立体路地に設けた出窓の明かりから、ここに住む人々はこの建物に住むことを共有できるのではと思う。

駅から近い立地で、普段は多くの人々が行き交い、地元の方の自転車が通ったりと人目が気になる。やわらかい光と風を取り込みながら視線を遮るよう、外構フェンスにはエキスパンドメタルを採用。外側からはほとんど見えず、内側からは気配が感じられるように裏と表で2枚貼りにした。

敷地の北側に計画道路の予定があるので、環境の変化に対応できる建物になるよう、階段室側の両側の壁の一部を乾式の認定界壁で作った。そうすることで建物を壊さず改修工事が行なえ、2住戸を1つにしたり、1人の所有者でワンフロアをオフィスとして使ったりと、将来多種多様な使い方ができるよう配慮した。

明るく使いやすいこの建物は、将来の周辺環境の変化に対応しながらも、その思想は変わることなく人々の生活も明るくしてくれることだろう。

(金子太亮氏 談 / 空間研究所)



貸室。立体路地に向けた出窓が造り付け家具に



L型の貸室。立体路地から日差しが差し込む



借景の緑を切り取る窓と立体路地に面した出窓



どの方向からも日差しが入り明るい貸室



フェンスで程よい距離感



窓に面した洗面所



立体路地（階段室）



エントランスの集合玄関機

構造：RC造
用途：共同住宅・長屋
規模：地下1階・地上3階
設計：篠原聡子・金子太亮 / 空間研究所
施工担当：池山・小坂
竣工：2021年5月
撮影：新良太



Daisuke Kaneko

今月は「Solana Takanawadai」の設計者、金子太亮氏にお話を伺いました。

日本大学大学院理工学研究科海洋建築工学を修了後、篠原聡子氏の主宰する空間研究所に入所され、数々の建物の設計を行っています。

—「海洋建築」とはあまり聞き慣れないのですが、大学時代はどのようなことを学ばれたのでしょうか。

金子：ウォーターフロントという響きがとても新鮮で、高校生の僕はなぜか、これからは『臨海部がアツい』と思って海洋建築工学科に入学しました。入ったときは大規模な埋め立てはほとんどなくて、お台場やみなとみらいの景観や手すりなどの研究をやっていました。学科では、建築計画から設計演習、海洋学、環境学など学びました。一年生の海洋実習では、帆船のヤードに登ってセルを畳む体験をしたり、海洋生物を観察したりしました。また、いろいろな研究室があって、メガフロートからアオサ、漁村や海水浴場の迷子の研究まで本当に幅の広い学科でした。僕は、唯一デザインが学べる坪山幸王研究室に入って、臨海部の超高層集合住宅について研究していました。海洋建築では、環境と建築の関わり方を広く学んだと思います。

—そうなんですね。学ばれた校舎も海辺が近いところだったのでしょうか。

金子：僕は6年間船橋で過ごしました。なにかあると大体幕張まで夜ドライブして、浜辺で語っていました。男子2人で(笑)海って偉大だなあって思いましたね。

—大学院修了後は篠原先生の事務所に入所されたんですね。

金子：修了してからおよそ14年が経ちます。最初は偶然にも大学近くでバレエスタジオの設計をさせていただきました。

—住宅街にあるバレエスタジオですね。外壁の打ち放しコンクリートがとても綺麗でした。鎌倉で設計を手掛けられた外観が印象的な建物もありますね。

金子：「SASU・KE」です。RC造に屋根が木造の建物です。RCの塊が前面にでないように、ファサードに木製ルーバーを使用しました。外観と内部からの眺めに配慮して3つの角度でランダムに設置しました。また、高低差のある敷地なので、敷地と街が分断されないように大階段で中庭をつなぎ連続性を持たせ、店舗利用もできる住戸を計画しました。



「SASU・KE」 撮影：金子太亮

—名前が特徴的ですね。金子：建物のある場所が



最初に手掛けられたバレエスタジオ

鎌倉の「佐助」というところなんです。それと、「家」を意味する「ケ」を付けて「SASU・KE」としました。名前で言うと「サンカク」という建物も面白いですよ。山梨県の山中にある建物なんですけど、冬場は雪が結構積もるので屋根の角度を60度にして自重で雪が落ちるようにしたんです。そうしたら、三角形の断面空間になって「サンカク」にしました。

—シェアハウスやシェアオフィスの設計・運営もされていますね。意識していることなどはあるのでしょうか。

金子：2012年にSHARE yaraichoが竣工した頃はシェアハウスという形式はなくて、下宿とか寄宿舎はありましたが、デザインされたものはなかったと思います。その後、シェアハウスが乱立されていくのですが、そこには運営に対する備えがなくていろいろな問題が起きましたよね。SHARE yaraichoでは、運営の核となる人物(共同設計者で入居者)が設計から関わり、空間のコンセプトから使われ方までイメージを共有していたことはよかったです。設計者は竣工したら終わりではなくて、建物の使われ方も施主と共有することが必要なかなと感じています。



「サンカク」 撮影：山田薫



「SHARE yaraicho」 撮影：アック東京

—現在進行中のプロジェクトのお話を伺えますか。

金子：登戸の再開発エリアで集合住宅の共用部分とファサードのデザイン監修や高円寺でも集合住宅のデザイン監修をおこなっています。こちらは、まちのコミュニティの核となるような新しい建物を目指しています。

—楽しみですね。本日はありがとうございました。

金子 太亮 (かねこ だいすけ)

- 1982年 埼玉県生まれ
- 2005年 日本大学理工学部海洋建築学科卒業
- 2007年 同大学大学院理工学研究科前期博士課程海洋建築工学専攻 修了 修士設計で「加藤賞」受賞
空間研究所入所 現在 チーフアーキテクト
- 2017年 『サンカク』で「山梨県建築文化賞」受賞
- 2018年 『サンカク』で「第21回木材活用コンクール」受賞
『集合住宅H2138』で「Good Design Award 2018」受賞
- 2019年 日本大学工学部海洋建築学科 非常勤講師

TOPICS/INFORMATION

「品川区の住宅（2005年 SHINCLUB61号）」の屋上リニューアル工事を行いました

昨年11月、「品川区の住宅」のセカンドオーナーであるB様より「屋上をファミリースペースとして利用できるようにしたい」とご相談をいただきました。「品川区の住宅」は2005年3月に弊社で新築を施工した物件で、B様は3年前前に建て主のH様より建物をご購入され、その後ご家族4人で住まわれています。

ご購入時、屋上をファミリースペースとして使いたいという想いがあったB様ですが、コロナ禍でご自身やお子さまが在宅する時間が増えたことで、その想いは日に日に強くなっていったそうです。弊社としても、新築した建物が、住まれる人の移り変わりとともにいろいろなカタチで建物の歴史を重ねていく姿を拝見でき、また携われることに喜びを感じつつ、今回のご相談に対応いたしました。お引渡し後、オーナーのB様夫妻にお話を伺いました。



作業中の建物全景

「こちらの建物をご購入されるにあたって何かきっかけがあったのでしょうか。B様：もともとここからすぐ近くのデザイナーズマンションに住んでいたのですが、賃貸でしたし2人目の子どももできたタイミングでもあったので家の購入を考えていたところ、妻がこの家を見つけてくれたんです。

奥様：たまたま近くを通りかかったときにこちらの家が目に入りまして。その時はまだ売り出しとかされていなかったにもかかわらず、見た瞬間言葉では表現できないご縁を感じました。「あ、将来この家住むだろうな」という直感といいますか。

B様：そしたら2017年12月頃に売りに出されまして、子どもを連れて内見に伺ったんです。お陰様で今に至っています。



手摺を設置

奥様：子どもがゲームでモノ造ったり建てたりするのですが、オシャレな家に住んでいる影響か、ゲーム内で綺麗なモノやこだわったモノを造るんです。その姿を見ているとオシャレな建物に住むことは子どもの教育上とてもいいものだなと感じました。美的感覚が自然と磨かれると言いますか、小さい頃から



階段を重機で吊り上げる

Before



新築時の「品川区の住宅」

After

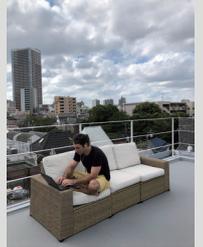


階段と手摺を設置

その風景が当たり前だと、考え方もそれが基準になるんだなと。本当にこちらの建物に住めてよかったと思います。

「一工事完了から3週間程経ちますが、屋上でなにかされましたか。

奥様：下の子どもがまだ小さいので、落下防止のネットを張っているところです。主人は階段ができた次の週にはビールやコーヒーを飲みながらゆっくりとした時間を楽しんでいます。あとはテレワークなのでPC持って行って仕事をしたり。夕日や月がとても綺麗に見えるんですよ。近くに大きな公園があって、冬で落葉すると見えなかったものが見えたりと景色が変わって行く様子もとても楽しいです。



お仕事をされるB様

「一四季折々が望めて良いですね。今後の活用方法などはありますか。

奥様：最初の目標は「家族でお月見をする」なんです。次はハロウィンの装飾をしたり、その次はクリスマスツリーを飾ったり。アメリカではイースターにお庭にたまごを隠してそれを探さず「エッグハント」というイベントがあるんですが、是非子どもたちとこの屋上でやりたいと思っています。イベントごとの「楽しい」を家族で過ごせる場所にしたいですね。

「一年中楽しんでいただけると嬉しいスペースになりそうですね。本日はありがとうございました。」



夕焼けとビル群が望める



夏にはプールを楽しめる

「(仮称) 目黒区緑が丘二丁目計画」新築工事 地鎮祭
2021年9月1日



自由が丘の北側丘の上、緑が丘で建て主様宅 + 共同住宅の建物を着工いたします。

構造：RC造
規模：地下1階・地上2階
用途：共同住宅
設計：岡田中野建築研究室
完成予定：2022年10月

「(仮称) 代々木の家」新築工事 地鎮祭
2021年9月10日



落ち着いた住宅地にふさわしい住宅を安全第一で建てさせていただきます。

構造：RC造
規模：地下1階・地上3階
用途：専用住宅
設計：今永環境計画一級建築士事務所
完成予定：2022年11月

【お詫びと訂正】

SHINCLUB258号4ページ掲載記事「ふるさと東京ユネスコ協会を通じてミャンマーへ義援金を送りました」の記事内でミャンマーの首都を「ヤンゴン」と記載いたしましたが、ミャンマーの首都は2006年より「ネピドー」へ変更となっております。ここに訂正し、お詫び申し上げます。

編集後記

・今月1日、弊社は創立22年を迎えました。前身会社が倒産して再スタートを切った日から今日に至るまで、数多くの方々に支えられ、邁進してまいりました。これからも皆様とともに良い建物をつくり続けるため、情熱をもって挑戦していきます。

(株)辰 通信 Vol.259 発行日 2021年10月10日
編集人：松村典子/村上由衣/本間夏来 発行人：若本健寿
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 3-8-10 JS 渋谷ビル5F TEL:03-3486-1570
FAX:03-3486-1450 E-mail: daihyo@esna.co.jp URL:http://www/esna.co.jp



「SHIN CLUB」はWEB上でもご覧いただけます。バックナンバーもPDFで掲載しています。スマホはこちらから→

